

三田市民病院との 統合に向けた合意につままして



主な合意の内容

1 三者の役割分担 (整備・運営主体)

- 済生会**：新病院の運営者
(指定管理方式)
- 三田市**：新病院の設置者
- 神戸市**：建設用地の確保と
一定の財政支援

2 新病院の病床規模

400床～450床

現在の病床数

- 済生会兵庫県病院：268床
- 三田市民病院：300床

3 新病院の建設場所

済生会兵庫県病院と三田市民病院の
中間地点付近(神戸市域)で今後適地
を選定



この度、済生会・三田市・神戸市の三者は、済生会兵庫県病院と三田市民病院の統合を図り、新病院を建設して、当該地域の急性期医療の充実を目指すことで合意し、今年6月2日に記者発表しました。



左右田院長のあいさつ ▶

◀ 三田市長からの説明

4 新病院の整備費・運営費の負担

(1) 整備費

- 済生会**：整備費の1/3を負担
- 三田市**：整備費の2/3を負担
- 神戸市**：新病院建設用地の確保及び
整備費の一部を支援

(2) 運営費

済生会が負担します。ただし、三田市は、救急医療や周産期医療などの政策医療等について、済生会に対する指定管理料として負担します。
神戸市からも一定の財政支援を受けます。

5 今後の想定スケジュール(予定)

- 2022年度～2024年度：新病院用地調査・用地確保、基本計画策定
- 2025年度～：設計・工事
- 2028年度：統合病院開設

※ただし、各過程が予定通り進捗しない場合は、開院時期が延びます。

まだスタートラインについたばかりですが、三者で協力し合い、前に進めていきたいと考えています。

なお、「直ちに病院がなくなってしまう」「医療機能が縮小されるのでは」と不安に思われる患者さん・ご家族の方がおられるかもしれませんが、新病院が完成するまでには**相当な年数**がかかりますので、その間は、**これまでどおり、身近な病院として当院を利用していただきますようお願い申し上げます。**

統合して新病院ができると、スケールメリットが生まれ、若い医師が増え、当直もしやすくなり、救急患者を受け入れやすくなります。スタッフの働く環境が良くなれば、今まで以上に研究する余裕ができ、医療レベルも上がります。統合新病院として、一刻を争う周産期医療・心筋梗塞・脳卒中など、救える命を救うことが出来る、高度で多機能な、文字通りの「基幹病院」に生まれ変わります。

患者の皆さん、地域住民の皆さんにとってもメリットが大きいと考えます。